



ゆがわらっことつくる多世代の居場所

一般社団法人ユガラボ



## ゆがわらっこつくる多世代の居場所のストーリー

2015年10月  
構想・物件探し

2016年5月  
放課後リノベーション

2016年11月  
居場所オープン

2018年10月  
一般社団法人化



湯河原町の子ども達と  
ワークショップを実施

ありのままで過ごせる  
場所が欲しいという子  
どもたちの声から居場  
所構想がスタート



半年間かけて放課後リ  
ノベーションを実施

子どもたちや地域の方々  
と一緒にゆがわらっこ  
つくる多世代の居場  
所を創るプロセス

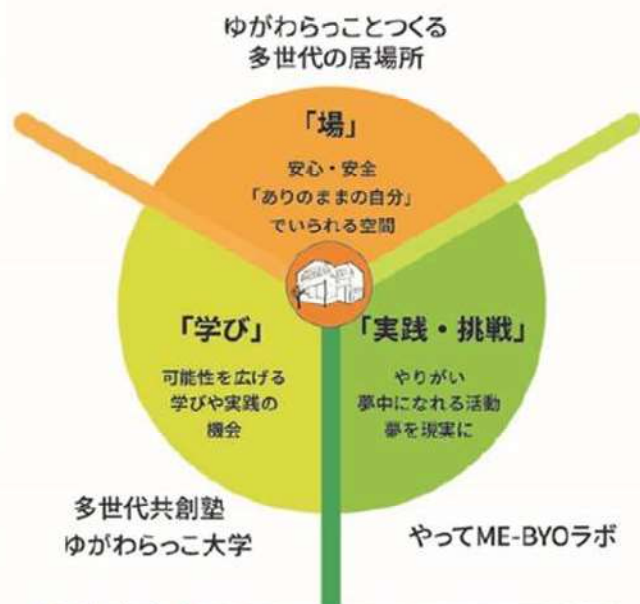


居場所のオープンには子どもからお  
年寄りまで多世代が集まる

子どもたち発案の湯河原温泉の足湯  
やみかんの植樹も地域の方々の支え  
により実現。2018年10月に一般社団  
法人化をし、より幅広く活動を開始。



# 2016-2019：居場所の日常

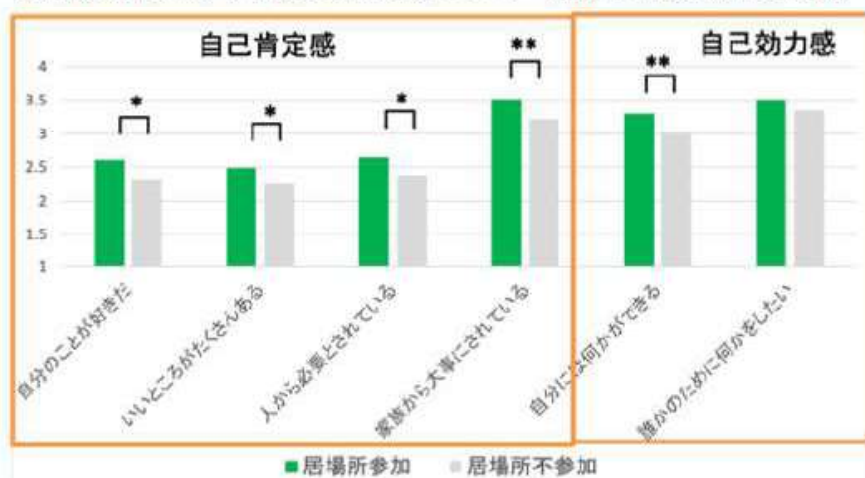


## 2016-2019：居場所参加者の効果測定と2019年度実績

多世代関係が小学生・中学生の自己肯定感と自己効力感に及ぼす影響について調査を実施し、**居場所参加者の子どもたちの方が自己肯定感、自己効力感共に有意に高いことがわかった**。また、本調査の中で、居場所参加者は、不参加群の子どもたちに比べ、同世代の中に「気にかけてくれる」「助けてくれる」関係が少ない子どもたちが参加していることもわかった。しかし、居場所参加者の子どもたちの方が多世代などの斜交関係が有意に高かった。

湯河原町内の全小中学校に通う小学4年～中学3年 (n=857)

居場所参加者84名、不参加者773名の2群について一元配置の分散分析により比較。



参考) 伴 英美子, 井上 真智子, 渡辺 賢治 (2019) 「多世代関係が小学生・中学生の自己肯定感と自己効力感に及ぼす影響」, 日本衛生学会雑誌, 第74巻第89回学術総会講演集号 S140.

### ■ 数字でみる 2019年度

来場者数 <b>1902</b> 人	活動日 <b>136</b> 日	運営箇所 <b>90</b> 回	イベント <b>17</b> 回	居場所堂 <b>15</b> 回
伊がわらっこ大学 <b>125</b> 教室		多世代共創塾 <b>10</b> 回	リノベーションWS <b>6</b> 日	
アート・工作 <b>29</b> 回	中高生自習タイム <b>21</b> 回	遊び・青年にクニック <b>17</b> 回	自然教室 <b>12</b> 回	英会話 <b>10</b> 回
料理教室 <b>11</b> 回	20代・30代・40代・50代 <b>8</b> 回	実践プログラミング <b>6</b> 回	スポーツ教室 <b>6</b> 回	宿題タイム教室 <b>3</b> 回



## 2020年新型コロナウイルス流行後：オンラインの居場所を開設

緊急事態宣言が発令された4月。子どもたちの安心できる居場所と継続的な学びを確保するため、4月13日からオンラインの居場所を開設。

4月13日より8月末まで**70日間**開所。

**総参加人数789人**（3歳～70代まで）

平日毎日 **9:30-10:30 / 13:00-14:30**

週末はオンライン工作教室やオンライン料理教室などオンラインでのスペシャル講座を実施。



## 2020年新型コロナウイルス流行後：湯河原町子ども宅食スタート

コロナウィルス感染症の流行に伴い、ひとり親家庭や生活困窮世帯の家計はより苦しくなった。

そこで、安心して食べられる食事と継続的な学び（学習支援）を届ける**湯河原町子ども宅食便**を11月より約300世帯に向けて開始。

湯河原町子ども支援課、教育委員会と連携をし、町内の該当家庭にお知らせを配布。さらに、**ソーシャルワーカーさん、ファイナンシャルプランナーさんとも連携**をしてサポートを実施。



食材5000円分と町内で使える飲食クーポン5000円分を配布し、町内の飲食店へも循環する湯河原モデルを確立。

## 今後の展望

2021年以降、2023年までの3年間で近隣の自治体における**経済的に困難な子どもたちへの支援**をしている団体とも連携し、安心できる居場所と継続的な学びを届ける活動を広げていく。

具体的には、オンラインの居場所の活動を他地域の拠点と連携し優良な学びのコンテンツの提供、各地域のソーシャルワーカーさんたちのネットワークを構築しながら、各団体が連携し、**西湘エリアの地域全体で子どもたちを育てられる場**をつくっていくことを目指す。

